

ITが変わる。仕事が変わる。

AWS Cloud Roadshow 2015

powered by



今さら聞けないAWSクラウド入門

2015年 10月26日

アマゾン データ サービス ジャパン株式会社

マーケティング本部

エンタープライズエバンジェリスト

渥美 俊英

Thank You!

 DataSpider® Servista


Challenging Tomorrow's Changes

 infoteria

 SAISON
CARD
INTERNATIONAL
 UC
Credit Saison Co., Ltd.


Global Knowledge.


GLOBALWISE


Serverworks


システムサポート


SKEED


So-net

 NetApp®


MKI
三井情報株式会社



フィードバックをお寄せ下さい

本イベントについてツイートされる際は、
ハッシュタグをご利用ください。

#AWSRoadshow

お帰りになる前には、アンケートへのご協力をお願いします。
引換用の記念品をご用意しています。



本日のアジェンダ

- 📦 AWSクラウドのご紹介
- 📦 広がるAWSクラウドユーザ
- 📦 AWSのセキュリティ
- 📦 AWSのことをもっと知りたい

アマゾンのイノベーション

Kiva System 配送センターのロボット



Amazon Dash button
押すだけで配達

Amazon PrimeAir



Amazon
Echo

音声認識
デバイス

AWSの起源は、Amazon社内の
“**ビジネス課題を解決**”するために生まれた
APIによる自動化テクノロジー



2015年：世界中に広がるAWSの拠点

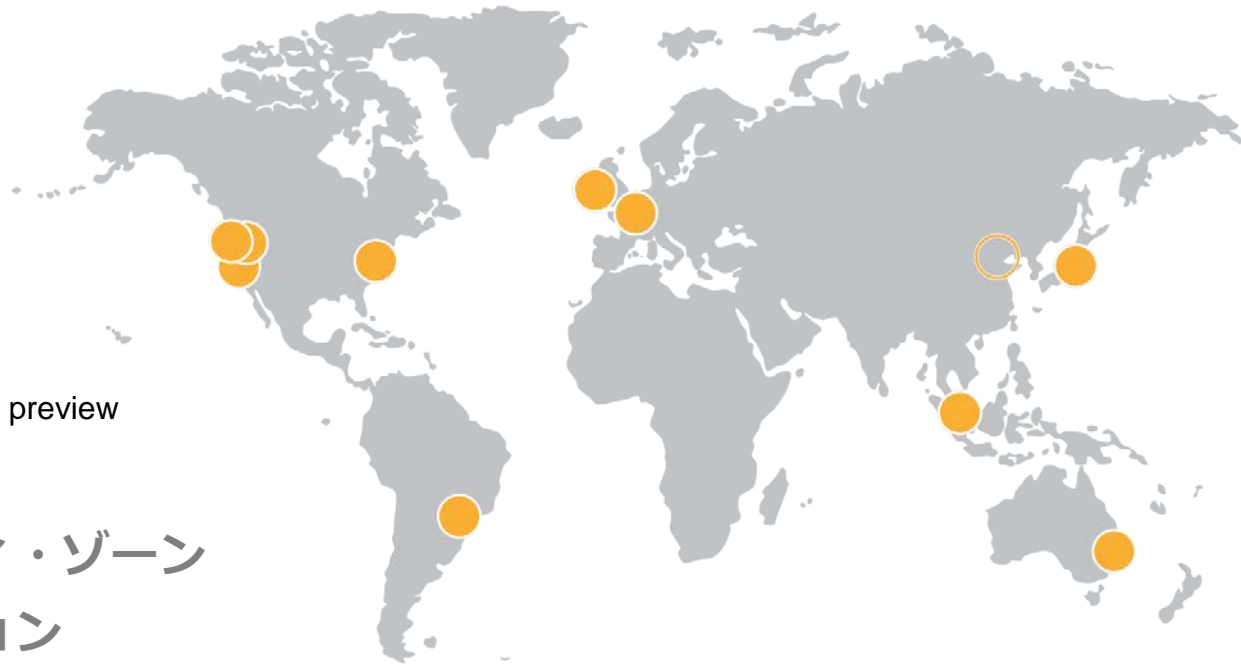
11 のリージョン

1. US EAST (Virginia)
2. US WEST (N. California)
3. US WEST 2 (Oregon)
4. EU WEST (Ireland)
5. JAPAN (Tokyo)
6. South America (Sao Paulo)
7. ASP 1 (Singapore)
8. ASP 2 (Sydney)
9. GovCloud
10. BJS 1 (Beijing China) limited preview
11. EU (Frankfurt)

30 のアベイラビリティ・ゾーン

53 のエッジロケーション

データ保管先は、ユーザーが明示的に指定



小売りのDNA：更なる低価格へのこだわり

規模の拡大と
イノベーション

資本
投資

より多く
の顧客
獲得

技術
投資

値

過去9年間で

50

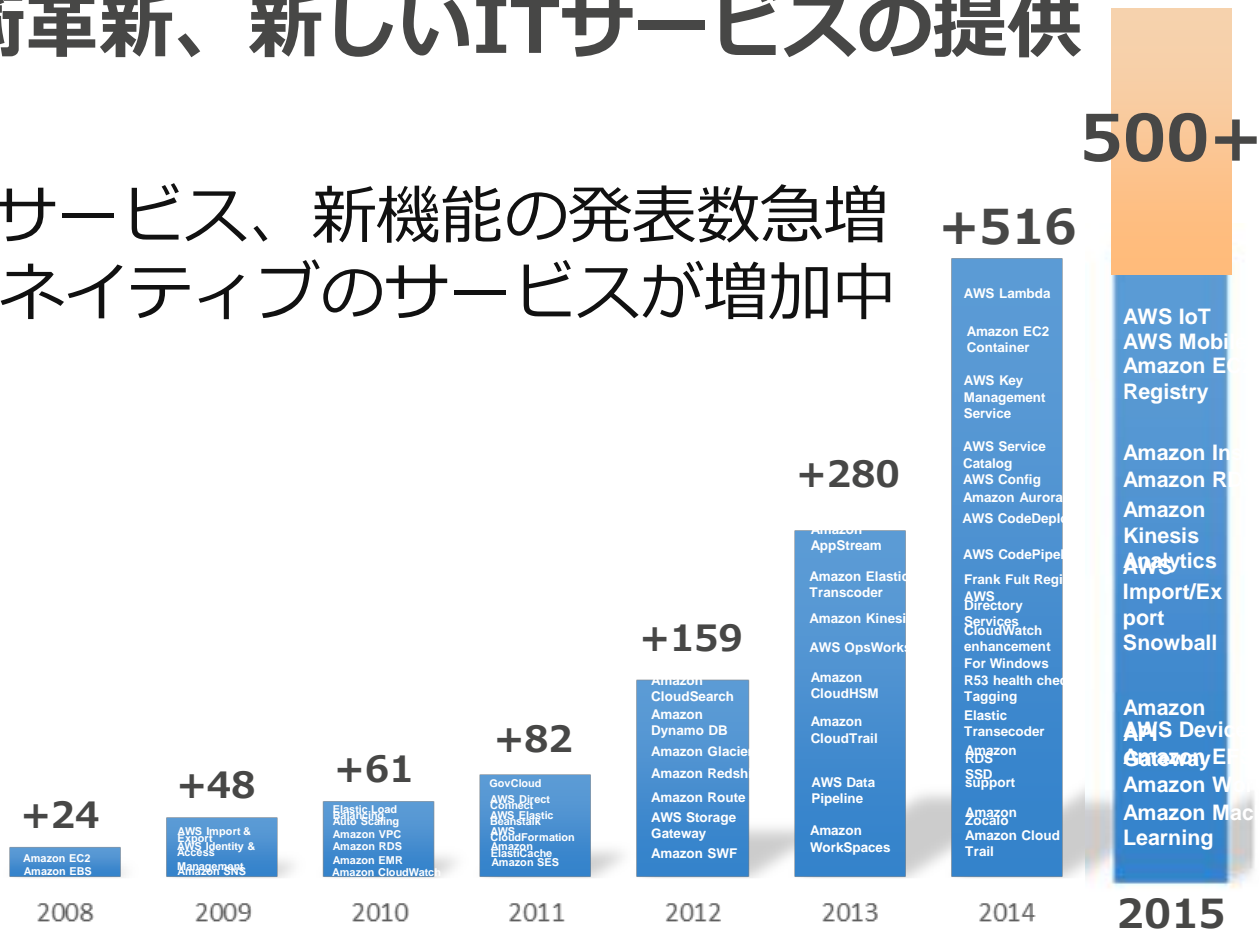
回の値下げを実施

効率
改善

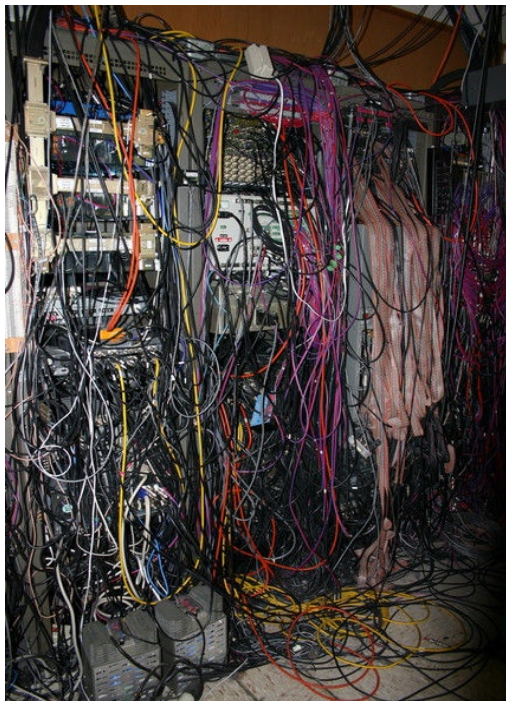


技術革新、新しいITサービスの提供

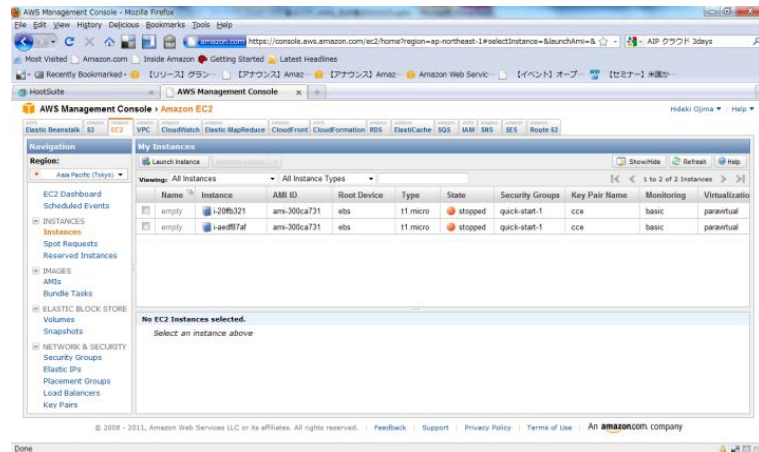
- 毎年、新サービス、新機能の発表数急増
- クラウドネイティブのサービスが増加中



オンプレミス vs. クラウド



VS.



必要なインフラが数クリックで手配可能に (日本語で操作OK)

AWS サービス 編集 Hideki Ojima 東京 サポート

アマゾン ウェブ サービス

コンピューティング <ul style="list-style-type: none">EC2 クラウド内の仮想サーバーLambda イベント発生時にコードを実行EC2 Container Service Docker コンテナの実行と管理	管理およびセキュリティ <ul style="list-style-type: none">Directory Service クラウド上の管理型ディレクトリIdentity & Access Management アクセスコントロールとキー管理Trusted Advisor AWS クラウド最適化エキスパートCloudTrail ユーザーアクティビティと変更の追跡Config リソース設定およびイベントリCloudWatch リソースとアプリケーションのモニタリング	アプリケーションサービス <ul style="list-style-type: none">SQS メッセージキューサービスSWF アプリケーションコンポーネントを連携させるワークフローサービスAppStream 仮想レイテンシーのアプリケーションストリーミングElastic Transcoder 使いやすいスケラブルなメディア変換サービスSES Eメール送信サービスCloudSearch マネージド型検索サービス	リソースグループ <p>リソースグループは、1つ以上のタグを共有するリソースのコレクションです。お客様のアカウントの各プロジェクトのグループ、アプリケーション、環境の作成</p> <p>グループの作成 タグエディター</p>
ストレージ & コンテンツ配信 <ul style="list-style-type: none">S3 スケーラブルなクラウドストレージStorage Gateway オンプレミス IT 環境とクラウドストレージの統合Glacier クラウド内のアーカイブストレージCloudFront グローバルなコンテンツ配信ネットワーク	デプロイ & マネジメント <ul style="list-style-type: none">Elastic Beanstalk AWS アプリケーションコンテナOpsWorks DevOps アプリケーション管理サービスCloudFormation テンプレートによる AWS リソース作成CodeDeploy 自動デプロイ	モバイルサービス <ul style="list-style-type: none">Cognito ユーザー ID およびアプリケーションデータの同期Mobile Analytics 大規模なアプリケーションの使用状況データの把握SNS プッシュ通知サービス	その他のリソース <p>はじめに サービスを初めて使用する手順やさらに詳しい使用方法については、ドキュメントを参照してください。</p> <p>AWS Console モバイルアプリ Amazon アプリストア、Google Play、または iTunes から入手可能な AWS コンソールモバイルアプリを使用して、出先でリソースを表示します。</p> <p>AWS Marketplace ソフトウェアを検索して購入し、1-Click で起動し、時間単位で料金を支払えます。</p> <p>AWS Summit - サンフランシスコ 詳細については、サンフランシスコで開催される AWS Summit で発表予定のエンジニアリングの新規サービスや機能をご確認ください。</p>
データベース <ul style="list-style-type: none">RDS マネージド型のリレーショナルデータベースサービスDynamoDB 予測可能でスケラブルな NoSQL データストアElastiCache インメモリキャッシュRedshift マネージド型のペタバイトスケールのデータウェアハウスサービス	分析 <ul style="list-style-type: none">Elastic MapReduce マネージド型 Hadoop フレームワークKinesis ビッグデータストリームのリアルタイム処理Data Pipeline テクノロジ型ワークフローに対するオーケストレーションサービスMachine Learning すぐやく簡単にスマートアプリケーションを構築	エンタープライズアプリケーション <ul style="list-style-type: none">WorkSpaces クラウド内のデスクトップWorkDocs セキュアなエンタープライズ向けストレージおよび共有サービスWorkMail プレビュー セキュリティ保護された Eメールとカレンダーサービス	サービス状態
ネットワーク <ul style="list-style-type: none">VPC 独立したクラウドリソースDirect Connect AWS への専用線接続			

必要なインフラが数クリックで手配可能に

The image shows a screenshot of the AWS Management Console. On the left, the 'Amazon Web Services' navigation menu is visible, with 'コンピューティング' (Computing) selected. A large orange arrow points from this menu item to a callout box. The callout box, titled 'コンピューティング' (Computing), lists the following services:

- EC2**
クラウド内の仮想サーバー
- EC2 Container Service**
Docker コンテナの実行と管理
- Elastic Beanstalk**
ウェブアプリの実行と管理
- Lambda**
イベント発生時にコードを実行

Below the callout box, the main console content is partially visible, showing the 'リソースグループ' (Resource Groups) page. The page header includes the user name 'Hideki Ojima', the region '東京' (Tokyo), and 'サポート' (Support). The 'リソースグループ' section contains the following text:

リソースグループは、1つ以上のタグを共有するリソースのコレクションです。お客様のアカウントの各プロジェクトのグループ、アプリケーション、環境の作成

Buttons for 'グループの作成' (Create Group) and 'タグエディター' (Tag Editor) are visible. Below this, the 'その他のリソース' (Other Resources) section is partially visible, starting with 'はじめに' (Getting Started).

必要なインフラが数クリックで手配可能に

Amazon Web Services (AWS) Management Console interface showing the 'Storage & Content Delivery' section. The interface is in Japanese and displays various AWS services categorized under 'Amazon Web Services'.

The main content area is divided into sections:

- ストレージ & コンテンツ配信** (Storage & Content Delivery):
 - S3: スケーラブルなクラウドストレージ
 - CloudFront: グローバルなコンテンツ配信ネットワーク
 - Elastic File System **プレビュー**: EC2 向け完全マネージド型ファイルシステム
 - Glacier: クラウド内のアーカイブストレージ
 - Import/Export Snowball: 大容量データの転送
 - Storage Gateway: オンプレミス IT 環境とクラウドストレージの統合
- データベース** (Database):
 - RDS: マネージド型リレーショナルデータベースサービス
 - DynamoDB: 予測可能でスケーラブルな NoSQL データストア
 - ElastiCache: インメモリキャッシュ
 - Redshift: マネージド型のペタバイトスケールのデータウェアハウスサービス

The left-hand navigation pane shows the 'Amazon Web Services' menu with categories like 'コンピューティング', 'ストレージ & コンテンツ配信', 'データベース', and 'ネットワークング'. A large orange arrow points from the 'ストレージ & コンテンツ配信' category to the main content area.

The top navigation bar includes 'AWS', 'サービス', '編集', 'Hideki Ojima', '東京', and 'サポート'.

必要なインフラが数クリックで手配可能に

AWS サービス 編集

アマゾン ウェブ サービス

コンピューティング

- EC2 クラウド内の仮想サーバー
- Lambda イベント発生時にコードを実行
- EC2 Container Service Docker コンテナの実行と管理

ストレージ & コンテンツ配信

- S3 スケーラブルなクラウドストレージ
- Storage Gateway オンプレミス環境とクラウド環境を接続
- Glacier アrchive ストレージ

データベース

- RDS マネージド型のリレーショナルデータベース
- DynamoDB 予測可能でスケーラブルな NoSQL データストア
- ElastiCache インメモリアプローチ
- Redshift マネージド型のベータバイトスケールのデータウェアハウスサービス

ネットワーク

- VPC 独立したクラウドリソース
- Direct Connect AWS への専用線接続

管理およびセキュリティ

- Directory Service クラウド上の管理型ディレクトリ
- Identity & Access Management アクセスコントロールとキー管理
- Trusted Advisor

アプリケーションサービス

- SQS メッセージキューサービス
- SWF アプリケーションコンポーネントのクラウドオーケストレーション

ネットワーク

- VPC 独立したクラウドリソース
- Direct Connect AWS への専用線接続
- Route 53 スケーラブルな DNS とドメインネーム登録

管理ツール

- CloudWatch リソースとアプリケーションのモニタリング
- CloudFormation テンプレートによるリソースの作成と管理
- CloudTrail ユーザーアクティビティと API の使用状況のトラッキング
- Config リソースのイベントリーと変更のトラッキング
- OpsWorks Chef を用いたオペレーションの自動化
- Service Catalog 標準化された製品の作成と使用
- Trusted Advisor パフォーマンスとセキュリティの最適化

必要なインフラが数クリックで手配可能に

Amazon Web Services (AWS) Management Console interface. The 'Security & Identity' section is highlighted with a red arrow. The console shows various services categorized into 'コンピューティング', 'ストレージ & コンテンツ配信', 'データベース', and 'ネットワークング'. The 'Security & Identity' section includes:

- Identity & Access Management: ユーザーアクセスと暗号化キーの管理
- Directory Service: アクティブディレクトリのホストと管理
- Inspector プレビュー: アプリケーションのセキュリティの分析
- WAF: 悪意あるウェブトラフィックのフィルター

分析

- EMR: マネージド型 Hadoop フレームワーク
- Data Pipeline: データ駆動型ワークフローに対するオーケストレーションサービス
- Elasticsearch Service: Elasticsearch クラスターの実行とスケールアップ
- Kinesis: リアルタイムストリーミングデータとの連携
- Machine Learning: すばやく簡単にスマートアプリケーションを構築

サービス状態

必要なインフラが数クリックで手配可能に

AWS サービス 編集

アマゾン ウェブ サービス

コンピューティング

- EC2 クラウド内の仮想サーバー
- Lambda イベント発生時にコードを実行
- EC2 Container Service Docker コンテナの実行と管理

ストレージ & コンテンツ配信

- S3 スケーラブルなクラウドストレージ
- Storage Gateway オンプレミス環境とクラウドストレージ
- Glacier アrchive ストレージ

データベース

- RDS マネージド型のリレーショナルデータベース
- DynamoDB 予測可能でスケーラブルな NoSQL データストア
- ElastiCache インメモリキャッシュ
- Redshift マネージド型のベータバイトスケールのデータウェアハウスサービス

ネットワーク

- VPC 独立したクラウドリソース
- Direct Connect AWS への専用接続

管理およびセキュリティ

- Directory Service クラウド上の管理型ディレクトリ

アプリケーションサービス

- SQS メッセージキューサービス

エンタープライズアプリケーション

- WorkSpaces クラウド内のデスクトップ
- WorkDocs セキュアなエンタープライズ向けストレージおよび共有サービス
- WorkMail プレビュー セキュリティ保護された E メールとカレンダーサービス

Kinesis ビッグデータストリームのリアルタイム処理

Data Pipeline テーク駆動型ワークフローに対するオーケストレーションサービス

Machine Learning すぐやく簡単にスマートアプリケーションを構築

WorkDocs セキュアなエンタープライズ向け共有サービス

WorkMail プレビュー セキュリティ保護された E メールサービス

モバイルサービス

- Mobile Hub** ベータ
モバイルアプリの構築、テスト、モニタリング
- Cognito**
ユーザー ID およびアプリケーションデータの同期
- Device Farm**
Cloud 上の実際のデバイスでの Android、Fire OS および iOS アプリのテスト
- Mobile Analytics**
アプリケーション分析の収集、表示、エクスポート
- SNS**
プッシュ通知サービス

サービス状態

数クリックで
サーバが利用できる？

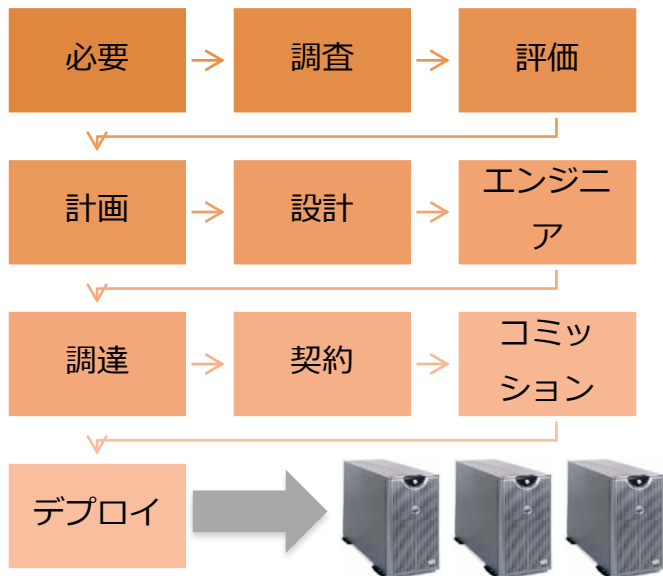
実際にご覧にいます



必要なインフラが数クリックで利用可能

オンプレミス

膨大な時間、手間、手戻り



クラウド

数クリックで調達



新しいテスト環境



新しい本番環境



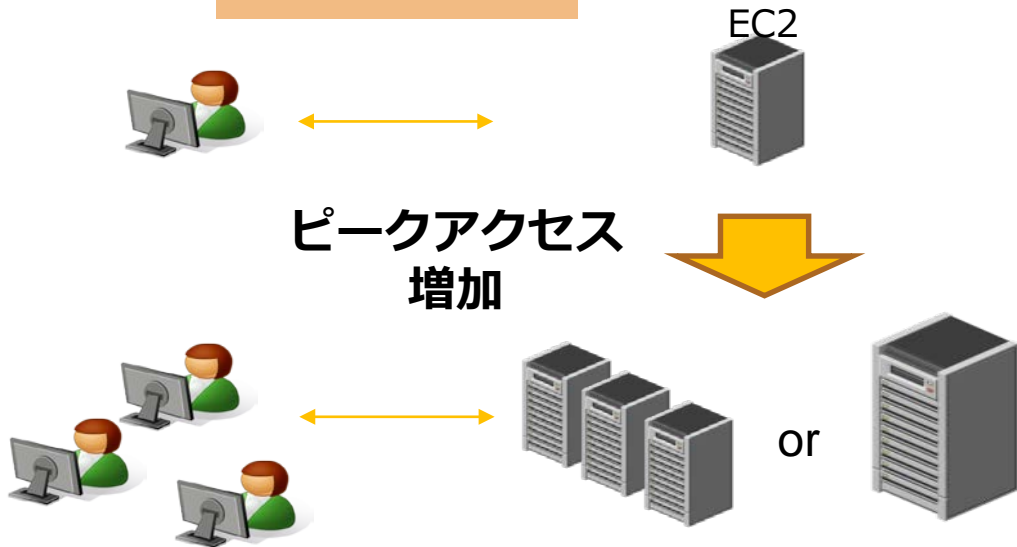
海外に構築



1,000 サーバ追加、削除

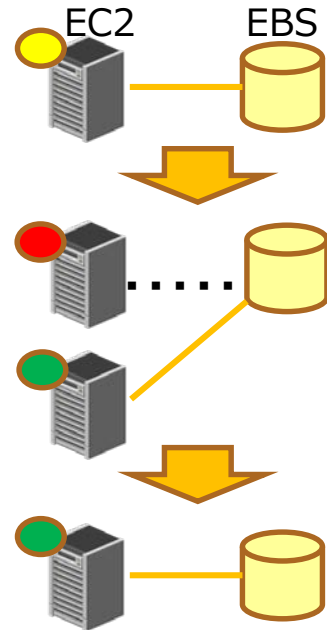
オンプレミスとクラウドの違い

ピーク対応



全てのサーバに「予備機」
があるのと同じ状況を提供

システムリカバリ



40以上のAWSサービス群

お客様のアプリケーション

ライブラリ & SDKs
Java, PHP,
.NET,
Python, Ruby



コマンドライン
インターフェース
CLI



Web管理画面
Management
Console



認証とログ
IAM, KMS,
CloudTrail,
CloudHSM

ディレクトリ
Directory
Service



管理・モニタリング
Cloud Watch,
Trusted Advisor
Config



デプロイと自動化
Elastic Beanstalk,
Cloud Formation,
OpsWorks
CodeDeploy



アプリケーション

Workspaces, WorkDocs, WorkMail



モバイルサービス

Mobile Analytics, Cognito, SNS



データベース

RDS, Aurora, DynamoDB,
Redshift, ElastiCache



アプリケーションサービス

AppStream, Cloud Search, SWF,
SQS, SES, Elastic Transcoder



分析

Elastic MapReduce,
Kinesis, Data Pipeline



コンピュート処理

EC2, Lambda, Auto Scaling,
Elastic Load Balancing



ストレージ

EBS, S3, Glacier, Storage Gateway



コンテンツ配信

CloudFront



ネットワーク

VPC, Route 53, Direct Connect

AWS

AWS

Region

AZ

グローバルインフラ

リージョン、アベイラビリティゾーン、エッジロケーション



既存の概念をクラウドサービスで置き換え



広がるAWSクラウドのサービス

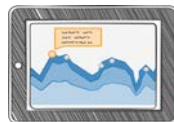
仮想デスクトップ



モバイル向けサービス



Amazon
Cognito



Amazon
Mobile Analytics



Amazon
Mobile SDK



Amazon SNS
プッシュ通知

ビッグデータ + リアルタイム



Amazon Elastic
MapReduce



Amazon Redshift




Amazon
Kinesis

本日のアジェンダ

 AWSクラウドのご紹介

 広がるAWSクラウドユーザ

 AWSのセキュリティ

 AWSのことをもっと知りたい

AWSクラウドを利用するお客様：20,000以上



ERPも on AWS で、数百の事例

MISAWA

ケンコーコム
kenko.com

通 日本通運
NIPPON EXPRESS

NOEVIR HOLDINGS

UMC

TIETECH

広島大学

KYOWA KIRIN

HOYA

三井物産株式会社

MKI

Anritsu
Discover What's Possible™

入船鋼材

Kellogg's

iDEA Consulting Inc.

スシロー

Combi

CRESCO

ANDERSEN
GROUP

Honda Logistics

KOMORI
Hando: Beyond Expectations

KYOEI STEEL

株式会社 日新
NISSIN CORPORATION

NIKKISO

SAP

WORKS
APPLICATIONS

ORACLE SuperStream

infor

powered by
amazon
web services

基幹システムをAWSクラウドへ（旭硝子様）

オンプレミスからAWSクラウドに
全面的に移行

理由：
5年毎の更改に振り回されない

自前BCP対策よりもクラウドが有利
BCP含て圧倒的なコスト削減

約8割のシステムをクラウドに移行
運用の予定

ニュース

メインフレームからAWSへ、旭硝子がクラウド運用を決めた理由とは？

(2015/4/8 06:00)

G+ 3 B! 24 ツイート 34 いいね! シェア 81 Pocket 47

2015年以降に構築する基幹システムの構築先として、アマゾン ウェブ サービス（AWS）を第1候補にすると決めた旭硝子。これまでオンプレミスで基幹システムを運用していた同社がクラウドへの移行を決めたきっかけは何だったのか。またなぜAWSを選んだのだろうか。AWSが主催する記者説明会にて2015年4月7日、旭硝子の担当者が語った。

旭硝子 情報システムセンター グローバルIT企画グループ
主席の浅沼勉氏によると、クラウドへの移行を検討し始めた



浅沼勉氏

仮想デスクトップ環境(VDI)をAWSで

AWS 導入事例：ヤマハ発動機株式会社



～ この環境に移行してからは、もう以前のオンプレミスな環境には戻れないというのが正直な感想です。 ～

VDIのシステム更新に、AWSのサービス
Amazon WorkSpaces をご採用

オンプレミスからAWSサービスに全面移行

理由：低コスト、迅速に2か月で導入
評価容易、パフォーマンス、安定性
今後も、運用容易、保守切れ対応から解放



お客様の声：AWSクラウドのメリット

ご利用のユーザ様の多くからお聞きします。

- インフラの調達、保守、5年毎の更改からの解放
- クラウドの方が、セキュリティ、統制レベル向上
- オンプレ比で、小さなコストで短期間でDR対応
- 実際のコスト削減効果 ⇒ TCO40～60%削減

クラウドの真価

IT部門が、よりビジネスの要求に素早く応える推進役に

丸紅様の言葉

IT部門が運用部隊から戦略部隊へとグレードアップする
そのツールがAWS。AWSは運用のメジャーリーガー。運用
はまかせて、我々はより戦略的なITに人と金を使う。

旭硝子様の言葉

クラウドはビジネスを変えるためのIT利用を容易にする。
攻めのIT、そのアイデア出しや構築の方にシフト。

本日のアジェンダ

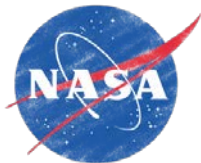
- 📦 AWSクラウドのご紹介
- 📦 広がるAWSクラウドユーザ
- 📦 AWSのセキュリティ
- 📦 AWSのことをもっと知りたい

AWSのセキュリティ、統制

- セキュリティはAWSにおいて最優先されるべき事項
テクノロジー、専門組織、プロセスに継続的に投資
- セキュリティと統制の要求が厳しい、多くの企業、組織に
応えてきたサービスを利用可能



NTT
docomo



AWS責任共有モデル

お客様のアプリケーション・コンテンツ

ユーザ

ネットワーク
セキュリティ

サーバー(OS)
セキュリティ

データ
セキュリティ

アクセス
コントロール

ユーザ自身で
クラウドを
コントロール可能

AWS 基本サービス

コンピューート

ストレージ

データベース

ネットワーク

AWSが
クラウドの基盤
とサービス運用
を担当



AWS
グローバルインフラストラクチャ

アベイラビリティゾーン

リージョン

エッジロケーション

主要な認証/標準/ベストプラクティスに準拠

SSAE 16/ISAE 3402、SOC1(旧SAS70)、SOC2、SOC3 監査報告書

ISO 27001、ISO 9001、PCI DSS Level 1

FISMA moderate、FedRAMP、HIPAA、ITAR、DoD(国防総省暫定認証) 等



AWSのセキュリティ、統制の公開ホワイトペーパー（日本語）

- AWS リスクとコンプライアンス
- AWSセキュリティプロセスの概要
- DDoSに対するAWSのベストプラクティス 他

DDoS に対する AWS の

ベストプラクティス

2015 年 6 月

AWS セキュリティ ホワイトペーパー
<https://aws.amazon.com/jp/whitepapers/>

Amazon Web Services セキュリティプロセスの概要

2011 年 5 月



Amazon Web Services : セキュリティプロセスの概要

2011 年 5 月

(本書の最新版については、<http://aws.amazon.com/security> をご覧ください。)

アマゾン ウェブ サービス: リスクとコンプライアンス

2015 年 4 月



アマゾン ウェブ サービス: リスクおよびコンプライアンス

2015 年 4 月

(本書の最新版については、<http://aws.amazon.com/compliance/aws-whitepapers/>
を参照してください)

ページ 1 - 133



AWSのセキュリティ、統制の公開ホワイトペーパー (日本語)

- AWS リスクとコンプライアンス

コンプライアンスに関するよくある質問と AWS

ここでは、クラウドコンピューティングのコンプライアンスに関してよくある質問と、それに対する AWS の回答を掲載します。一般的なコンプライアンスの問題の中には、クラウドコンピューティング環境で評価および運用するとき関係するものや、AWS のお客様の統制管理の取り組みに役立つものがあります。

参照番号	クラウドコンピューティングに関する質問	AWS の情報
1	統制の所有権。クラウドにデプロイしたインフラストラクチャを統制する所有権は誰にありますか？	AWS にデプロイされている部分については、AWS がそのテクノロジーの物理コンポーネントを統制します。その他の部分は、接続ポイントや送信の統制を含め、お客様がすべてを所有し、統制します。AWS で定めている統制の内容と、効率的に運用する方法について理解できるように、AWS では SOC 1 Type II レポートを発行し、EC2、S3、VPC を中心とした定義済みの統制、ならびに詳細な物理セキュリティおよび環境統制を公表しています。これらの統制の定義は、ほとんどのお客様のニーズを満たします。AWS と機密保持契約を結んでいる AWS のお客様は、SOC 1 Type II レポートのコピーを要求できます。
2	IT の監査。クラウドプロバイダの監査はどのように実施すればよいですか？	ほとんどのレイヤーと、物理統制よりも上の統制の監査は、お客様の担当です。AWS 定義の論理統制と物理統制の定義は、SOC 1 Type II レポート (SSAE 16) に文書化されています。また、このレポートは、この監査チームとコンプライアンスチームのレビューに使用できます。また、AWS ISO 27001 およびその他の認定も、監査人のレビュー用に使用できます。

セキュリティは大丈夫？（ソニー銀行様）

評価の結果、AWSではセキュリティ、内部統制などの基準をクリアした信頼性の高いシステム運用が実施されていることを確認しました。
ISO27001やPCI DSSなどを取得しており、AWSへの申請で第三者機関によるセキュリティレポートの定期的な入手も可能となりました。



ソニー銀行 システム企画部 マネージャー 基盤統括担当 大久保光伸氏

<出所 Publickey>

http://www.publickey1.jp/blog/14/amazon_aws_summit_tokyo_2014.html

まとめ：AWSクラウドが選択される理由

- 📦 ITの構築、運用が、楽にできる
- 📦 コスト削減
- 📦 よりビジネスへの貢献に注力

本日のアジェンダ

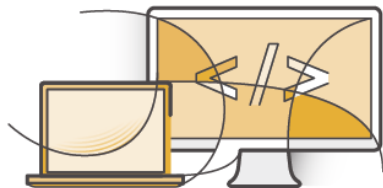
- 📦 AWSクラウドのご紹介
- 📦 広がるAWSクラウドユーザ
- 📦 AWSのセキュリティ
- 📦 AWSのことをもっと知りたい

トレーニング、ユーザコミュニティで ラーニング環境も充実



公式トレーニング

ユーザーコミュニティ



セルフペースラボ

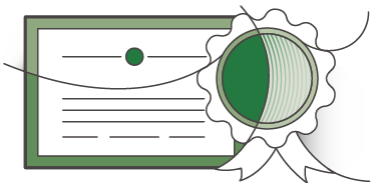


JAWS-UG =



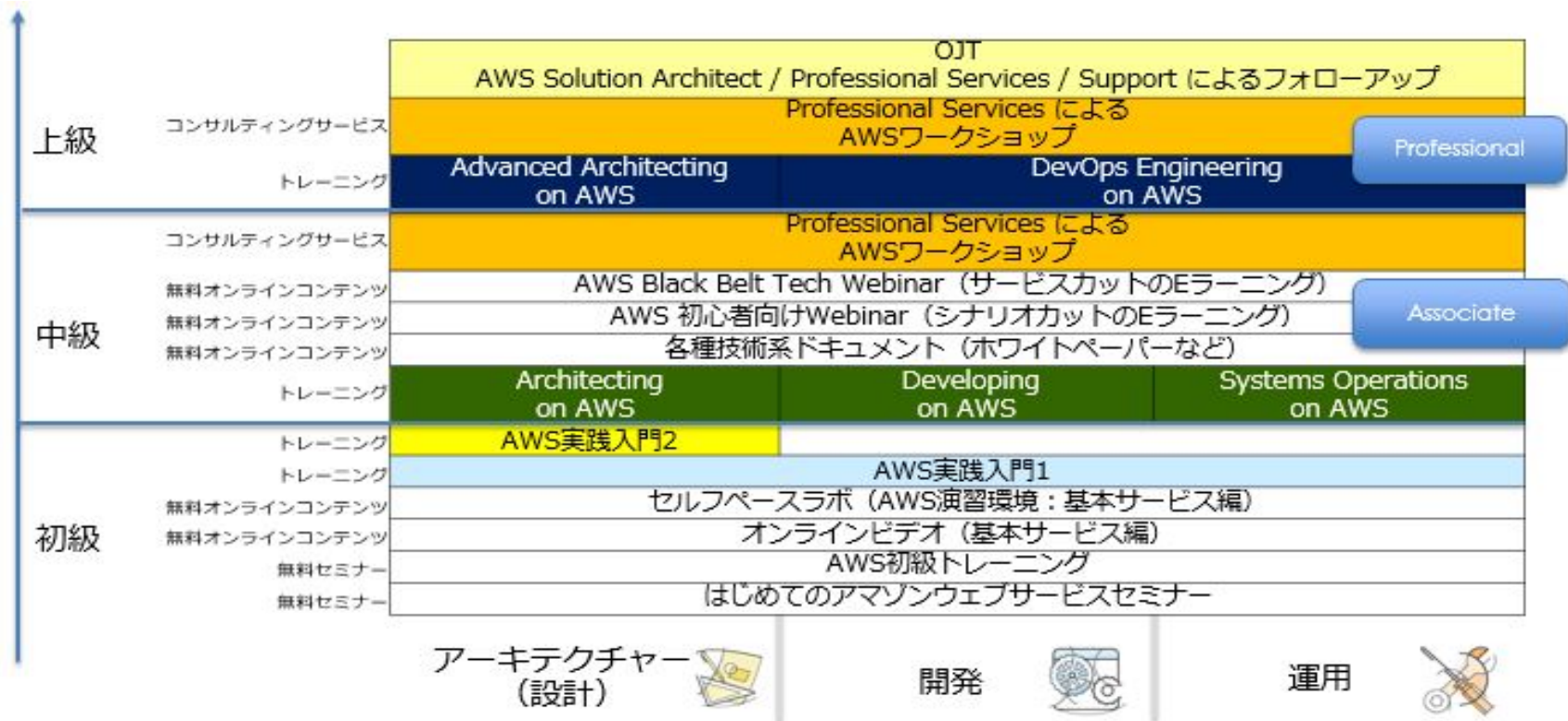
Enterprise
JAWS-UG
AWS User Group - Japan

Japan AWS User Group
全国50拠点以上で活動中



認定試験

AWSが提供する AWS知識レベルと習得のステップの全体像



技術者のレベルに合わせたトレーニングコース設定



AWSトレーニング

ロードマップ



アーキテクチャー
(設計)



開発

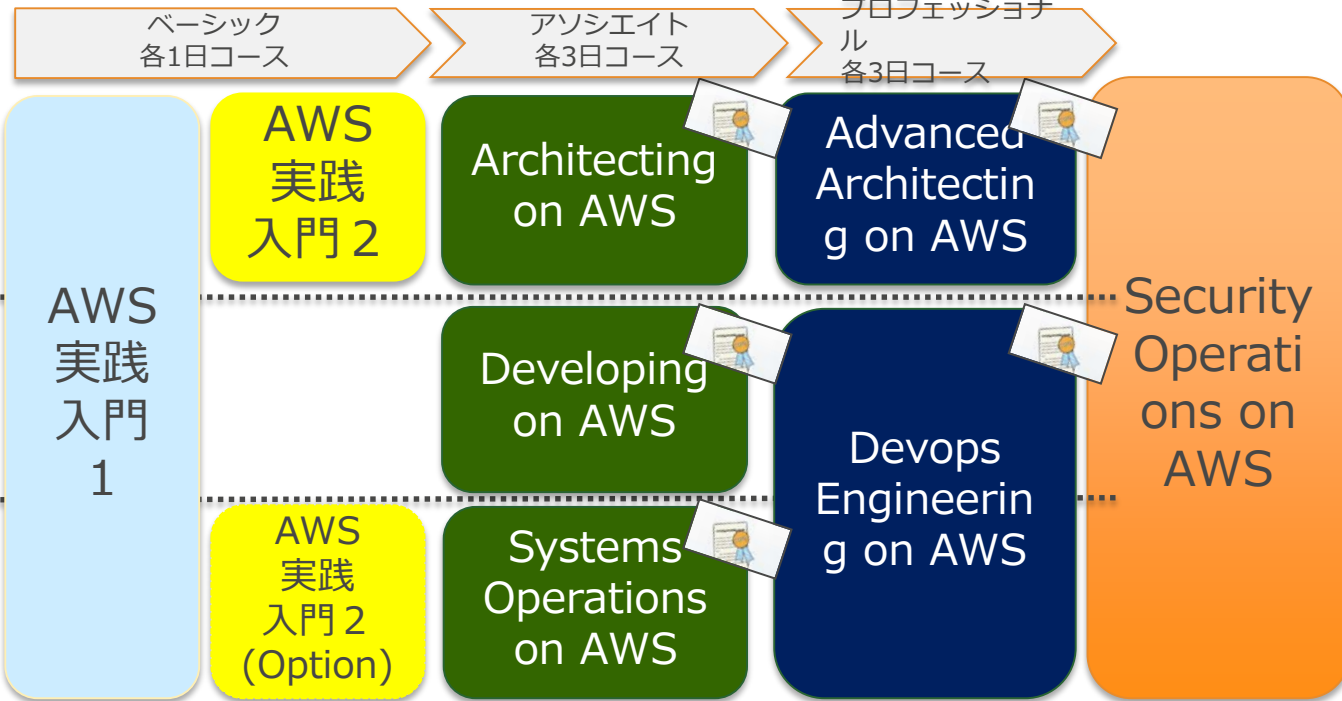


運用

1人当たり受講料金/1日 : 600ドル (税別)

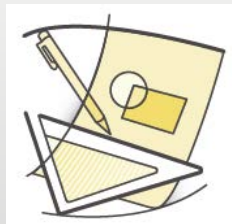


認定資格

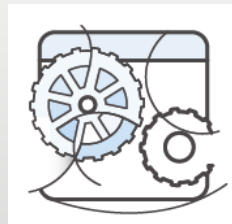


AWS技術証明のためのコンテンツ 認定資格

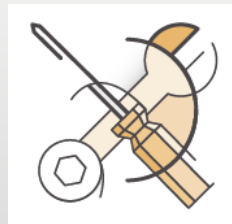
プロフェッショナル
レベル



AWS 認定
ソリューションアーキテクト
- プロフェッショナル試験



AWS 認定
Devops エンジニア
- プロフェッショナル試験



AWS 認定 SysOps
アドミニストレーター
- アソシエイト試験

アソシエイト
レベル

AWS 認定
ソリューションアーキテクト
- アソシエイト試験

AWS 認定
デベロッパー
- アソシエイト試験

アソシエイトレベル受験料金 : 15,000円 (税別)
プロフェッショナルレベル受験料金 : 30,000円 (税別)

クリック数回で「ITの新しい常識」

AWSに、是非、触ってみてください！

“AWS セルフベース ラボ” 実機Web自習

The screenshot displays the QwikLABS website interface. At the top, there is a navigation bar with the QwikLABS logo, a menu with links for 'QWIKLABとは', 'ラボカタログ', '価格表', 'よくある質問', and 'お問い合わせ', a language selector, and a '新規アカウント作成 サインイン' link. The main content area features a large banner with the text 'Real training, real-time, real environments.' and a description of the hands-on learning experience. Below the banner is a search bar for labs within the catalog. On the right, a 'ラーニングクエストを見る' (View Learning Quest) panel is open, showing filters for 'Service Area' (Amazon Web Services), 'Use Case (Beginner)', 'Use Case (Experienced)', 'Exam Prep', and 'AWS for Windows'. The selected quest is 'Compute & Networking', with a summary: 'In this quest, you'll learn to work with services related to Compute and Networking, including Amazon EC2, Amazon Elastic Load Balancing, and Amazon Virtual Private Cloud (VPC)'. A table on the right provides statistics: 7 labs, 64 lab steps, and a total time of 03 hours and 58 minutes. A '全てのラボを表示' (Show all labs) button is at the bottom of the panel. The footer contains four promotional banners: 'はじめましょう! QwikLABS + クエスト', 'QwikLABS とのパートナーシップについて', 'New AWS for Windows Lab Offer', and '無料ラボをお試しください'.

QwikLABS QWIKLABとは ラボカタログ 価格表 よくある質問 お問い合わせ 言語 ▼ 新規アカウント作成 サインイン

Real training, real-time, real environments.

クラウドコンピューティングおよびソフトウェア技術のハンズオントレーニングを提供します。オンデマンドで、ご自分のペースに合わせて学習を進めることができます。豊富なラーニングクエストのラインナップからお選びください。

カタログ内のラボを検索する

ラーニングクエストを見る

Amazon Web Services

Service Area Use Case (Beginner) Use Case (Experienced)
Exam Prep AWS for Windows

Compute & Networking

In this quest, you'll learn to work with services related to Compute and Networking, including Amazon EC2, Amazon Elastic Load Balancing, and Amazon Virtual Private Cloud (VPC).

全ラボ:	7
ラボステップの合計:	64
合計時間:	03 時:58 分

全てのラボを表示

はじめましょう! QwikLABS + クエスト QwikLABS とのパートナーシップについて New AWS for Windows Lab Offer 無料ラボをお試しください

“AWS セルフベース ラボ” 実機Web自習

The image shows a composite screenshot of a web browser. The background is a tutorial page for Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) with the title "Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) 入門". The tutorial content includes sections like "Introduction to Amazon Elastic Compute Cloud (EC2) Instructions-- Commands in *.txt format" and "Amazon マシンイメージ (AMI) からの Amazon Linux の作成".

Overlaid on the tutorial is a "AWS マネジメントコンソール" (AWS Management Console) window. The console shows the user's account ID as 290406894 and the user name as awsstude. A red warning box in the console states: "注意 このラボで使用している AWS リソースには、多数のハンズオンラボ、または qwikLAB™ に関連しないリソースが一切送信しない予定です" (Note: The AWS resources used in this lab may include many hands-on labs or resources not related to qwikLAB. No resources will be sent).

An orange arrow points from the tutorial page to the AWS Management Console, indicating the transition from learning to hands-on practice. The console displays the "アマゾン ウェブ サービス" (Amazon Web Services) menu with various services categorized into groups like "コンピューティング" (Computing), "ストレージ & コンテンツ配信" (Storage & Content Delivery), "開発者用ツール" (Developer Tools), and "IoT".

“AWS セルフベース ラボ” 是非、展示会場へ



“すぐに”試せる 1 年間の無料利用枠

メニュー



AWS Cloud Roadshow

製品・サービス 詳細

日本語 アカウント

サインアップ

AWS について

[AWS 無料利用枠 | AWS クラウドサービスを無料で試用](#) >

[AWS 無料利用枠提供規約](#) >
[よくある質問](#) >

関連リンク

[クラウドの強みとメリット](#)

[AWS のご利用開始方法](#)

[AWS 製品 & サービス](#)

[AWS でウェブサイトを実行する](#)

[クラウド推奨構成とお見積り例](#)

AWS クラウド 無料利用枠

Amazon の AWS 無料利用枠では、[サインアップ](#)してから 12 か月間、AWS クラウドサービスを無料で実際にお使いいただけます。

AWS アカウントを作成すると、次に示す 25 の製品およびサービスをいずれも使用制限の範囲内で無料でご利用いただくことができます。

アマゾン ウェブ サービス (AWS) 無料利用枠では、AWS クラウドサービスを無料で実際にお使いいただけます。AWS 無料利用枠には、AWS に[サインアップ](#)した日から 12 か月間お使いいただける無料利用枠の付いたサービスと、12 か月間の無料利用期間終了後にも自動的に期限切れにならない追加サービスが提供されています。

AWS を無料でお試しください。お支払いは実際に使用した分だけです。

[まずは無料で始める >](#)

AWS アカウント作成にはご利用可能なクレジットカードのご登録が必要となりますが、無料範囲内のご利用で課金されることはありません。詳細は[提供規約](#)をご覧ください。

[AWS アカウント作成の流れはこちら >](#)

<https://aws.amazon.com/jp/free/>

参考情報

- 📦 AWSクラウドのメリットとは？
<http://aws.amazon.com/jp/what-is-cloud-computing/>
- 📦 AWSクラウドの利用開始方法
<http://aws.amazon.com/jp/getting-started/>
- 📦 AWSクラウド無料利用枠のご案内
<http://aws.amazon.com/jp/free/>
- 📦 AWSクラウドの製品（サービス）
<http://aws.amazon.com/jp/products/>
- 📦 AWSクラウド導入事例のご案内
<http://aws.amazon.com/jp/solutions/case-studies-jp/>
- 📦 国内のAWS関連イベント・セミナー情報
http://aws.amazon.com/jp/event_schedule/

